



市議会だより きたあきた



No. 34 平成25年2月1日発行

12月定例会

- 本定例会の審議 2～3
- 常任委員会の審査報告 4～5
- 一般質問 6～11
- 議案に対する議員の態度 12
秋田内陸線北秋田議員連盟設立
- 決算特別委員会報告 13
委員会所管事務調査報告
- 請願・陳情・人事案件 14
副委員長の辞任・選任

目指せ自己新記録！
第12回あきた北空港学童
クロスカントリースキー選手権大会

阿仁熊牧場改修設計委託料など

一般会計補正予算を原案可決

平成24年北秋田市議会12月定例会は、12月4日（火）から12月14日（金）までの11日間の会期で行われました。今定例会では、条例案11件、予算案11件、決算認定24件、陳情8件など79件の議案が提案されました。そのうち、生活保護基準の引き下げをしない旨の陳情2件が不採択となりました。そのほかの議案は賛成多数または、全会一致により原案のとおり可決されました。



79件の議案を審議した市議会12月定例会

住宅リフォーム補助金追加補正

平成24年度一般会計補正予算（第5号）は、歳入と歳出の総額にそれぞれ2億59万1千円を追加し、予算の総額を206億9076万3千円とするものです。

歳出の主なものは、障害者支援費給付事業1億639万1千円、肺炎球菌ワクチン等接種事業735万8千円、市民病院

薬局建設用地の土地購入費3490万円、雇用に創出する農林漁業ビジネス支援事業費補助金985万6千円、農業水利施設長寿命化対策支援事業520万円、熊牧場改修工事実施設計委託料2000万円、住宅リフォーム緊急支援事業補助金1550万円などです。

また、平成24年度一般会計補正予算（第4号）の内容は、衆議院議員総選挙事務費3356万6千円です。

阿仁熊牧場安全対策などで付帯意見

一般会計補正予算（第5号）のうち、阿仁熊牧場改修設計委託料について、全会一致で可決すべきものとした産業建設常任委員会は、①秋田八幡平クマ牧場のような惨劇が二度と起こり得ないよう徹底した安全対策を施すこと。②市に新たな財政負担が生じないように県と十分に協議し確約を受けること。



委員会で付帯意見を付した阿仁熊牧場

指定管理者7団体を指定

③施設運営に工夫を凝らし、地域文化の継承、発展に寄与し地域振興を積極的に推進する。とした3点の付帯意見を付したことを報告しました。

市の公の施設の管理や運営を行わせる指定管理者の指定については、中村地区コミュニティセンターは中村自治会、北秋田市軽費老人ホーム（A型）大野台エコーハイツは社会福祉法人秋田民生協会、ことぶき荘・もろびこども園は社会福祉法人北秋田市社会福祉協議会、フードセンターたかのすは一般財団法人たかのす福祉公社、北秋田市妖精の森はぶなの雫森吉山合資会社、北秋田市アグリハウスは秋田クマガエラ会、北秋田市畜産経営環境整備施設は有限会社北秋田市有機センターにそれぞれ指定しました。

賛成・反対討論

※発言順に掲載しています

陳情第37号 消費税増
税の中止を国に求める
陳情について

反対討論



山田博康議員

消費税を上げるといふことは、国民にとって誰もが喜ぶことではない。しかし、国家財政がひっ迫している中、確かな財源を確保していかないことには国の将来が危ぶまれ、誰もが求める福祉の充実を図る意味でも消費税を増税して明確な財源を確保する必要がある。

賛成討論



福岡由巳議員

社会保障は切り捨て解体、税金は公共事業と大企業減税に書き改められた消費税

増税であり、13・5兆円もの国民負担増を押し付けるものであり、国内経済の底抜け、中小企業をはじめとして、国民の大多数がまさに悲鳴を上げる内容になっている。

議案第104号 北秋
田市軽費老人ホーム
(A型) 大野台エコー
ハウスの指定管理者の
指定について

反対討論



金田司議員

指定管理料が高すぎる。

民間の福祉施設では到底考えられないような職員1人当たり552万円という給料が払われている。市が財政難の中いろいろな経費削減を考えていると思えない。もっと経費削減した指定管

理料を払って運営してもらうべき。

陳情第38号 安全・安心
の医療・介護実現のため
の夜勤改善・大幅増員を
求める陳情書について

賛成討論



板垣淳議員

当市にとつて医師確保はのどから手が出るほどの強い願いである。これを妨げている根本原因は、国全体の医師数が少ないということであり、その改善を求めるのは北秋田市民として当然である。また、12月議会でも同様の陳情が提出され、全会一致で採択している。

陳情第39号 介護職員
処遇改善加算の継続、
拡充を求める陳情書に
ついて

賛成討論

板垣淳議員

市内の福祉施設からこの加算だけはなくさないほしいとの要望があり、介護で苦勞されている職員や施

設の思いをくみ取つてこの陳情は採択すべき。今年5月の比立内養護老人ホームもろび苑での事件への反省から打開の一助となるこの意見書を国に挙げるべき。

陳情第42号 国に、生
活保護基準の引き下げ
をしないことを求める
陳情書について

賛成討論

板垣淳議員

生活保護は憲法に基づいたもの。一部の不正受給やより低い水準と比べて論じるのではなく、最後のセーフティーネットとして機能しているかどうかが大事な視点であつて、その意味でこの制度をこれ以上改悪するべきではなく、よつて陳情は採択するべきと考える。

反対討論

山田博康議員

生活保護そのものが働いている人よりも給付額が多いという問題が現実的に起きている。やはりこれは制度として見直していく必要があり、国民の労働意欲そのものを欠く要因にもなり

かねない。また、消費税の増税は反対、生活保護は現状では筋違いである。

賛成討論

福岡由巳議員

生活保護の切り下げということは、今の私たちの生活が、非常に困窮者が多く増えてきているということからすると、自治体負担維持という全国市長会のこの要望というのは切実なものであり、議会としても推していく必要があるのではないかと感じる。

継審認定第1号 平成
23年度北秋田市一般会
計歳入歳出決算の認定
について

反対討論

福岡由巳議員

市長のトップセールスと副市長2人制について、進まない問題が少なくなく、新医療整備構想も大局的には政策判断ミスである。また、旧米内沢総合病院の大量解雇のために生じた約20億円の退職手当特別負担は市の財政をさらに悪化させるものとなつた。

総務財政

阿仁克雪
定住住宅条例廃止

当委員会に付託された案件は、承認1件、条例案2件、予算案1件、陳情2件でした。

北秋田市阿仁克雪定住住宅条例を廃止する条例の制定については、旧阿仁町において豪雪地帯における快適な住宅の普及と定住人口の増加をはかる目的で、平成7年から9年にかけて計

4棟建築されたもので、入居後15年で当該入居者に住宅及び敷地を譲渡して定住を企てる政策でありました。しかし、平成22年から平成24年3月までにかけ全員退去し、現在は入居者はいない状況です。退去の理由は様々で「実家の両親が亡くなり跡を継がなければならぬ。又親の面倒を見なければならぬ」等でした。

最初の入居条件である購入希望との約束が守られなかったのはなぜか、との問いには、説明会を開き購入に向けお願いをしたが、どうしても出たいということであれば、条例上しるべきではないとの説明がありました。

条例廃止後は、普通財産として売却の方向で進みます。学校に、バス代、リフト代、外部講師謝礼などを補助するものであるとの説明がありました。

庁舎内に
700台のパソコン

また、予算の審査では内部情報系パソコン14台更新について質疑があり、庁内には約700台のパソコンがあり、その内、内部情報系で使っているパソコンは約600台である。昨年度の決算では70台購入している、との説明がありました。

付託案件は、消費税増税の中止を国に求める陳情については、賛成多数で、他

の案件は全会一致で、承認原案可決、採択と決しております。

(委員長 黒澤芳彦)



条例が廃止された阿仁克雪定住住宅

教育民生

地域の拠点に
前田公民館

当委員会に付託された案件は、条例案2件、予算案2件、単行議案1件、陳情2件でした。

北秋田市公民館条例の一部を改正する条例の制定については、前田公民館の建設に伴うものでした。委員が管理体制などについて質問。当局からは、森吉公民館が本館、前田公民館を地

区館と考えている。非常勤の館長1名、管理人1名でスタートする予定である、との説明があり、全会一致で原案のとおり可決としました。

平成24年度一般会計補正予算所管分については、ウインタースポーツパワーアップ事業の内容について質問。スキー教室を実施する

また、平成24年度国民健康保険特別会計補正予算については、委員が今後の国保財政の見通しに関して質問。後期高齢者の支援金、介護納付金の伸びなど心配な点もあるが税収も伸びており、最終的には2億円前後の黒字が見込まれ、来年度は税率を改正しなくてもよいのではないかと考えているとの答弁がありました。

中村地区コミュニティセンター

負担付指定管理

両予算案については、全会一致で原案のとおり可決としました。

北秋田市中村地区コミュニティセンターの指定管理者の指定については、管理費用の掛かり増し分を市が負担することで地元自治会と合意した指定管理であるとの説明を受け、全会一致で原案のとおり可決としました。

(委員長 松橋 隆)



新築された前田公民館

健康福祉

老人憩いの家 減築で地元自治会と協議

当委員会に付託された案件は、条例案1件、予算案5件、単行議案5件、陳情4件でした。

北秋田市老人憩いの家条例の一部を改正する条例の制定については、閉鎖後の利活用の質疑があり、減築した方が維持管理の面で良いとすれば、地元自治会と協議していききたい。との説

明がありました。

平成24年度一般会計補正予算所管分については、鷹巣東、あいかわ、米内沢の3保育園にそれぞれ1名の有資格者の保育士を雇用し、待機児童15名を受入れたい。また、2薬局の事業用定期借地権と普通財産貸付料の合計は年間113万3435円で、市の財務規則に則

った使用料で算定。契約期間は1薬局が木造の為、協議のうえ20年で契約したものです。

平成24年度北秋田市直米内沢診療所特別会計補正予算については、医師の特殊勤務手当の種類や支給についての質疑で、当局は見直しや検討の方向性を出しました。

フードセンター 一般財団法人に

フードセンターたかのすの指定管理者の指定につい

ては、指定管理者の法人形態が財団法人から一般財団法人に変更されたことについての質疑があり、事業者選定委員会から報告を受けている。との説明がありました。条例案、予算案、単行議案については、すべて全会一致で可決すべきものと決しました。

介護職員待遇改善の陳情書については、介護の職場実態が非常に悪い。特に医師、看護師、介護員の増員が求められている。との意見があり、賛成多数で採択

すべきものと決しました。また、生活保護基準の引き下げをしない陳情書については、老齢加算復活等の意見があり、賛成少数で不採択すべきものと決しました。

(委員長 中嶋洋子)



今後の利活用を地元自治会と協議する老人憩いの家

産業建設

熊牧場予算に付帯意見

当委員会に付託された案件は、条例案5件、予算案6件、単行議案5件でした。条例案5件は上位法の施行に伴い制定するもの。又、一般会計補正予算のヒグマ受入れに関する設計料には、秋田県と条件が整い覚書を結ぶ段階に至ったことから

関連予算が提案され、覚書の案が委員会に提示されま

した。県との協議が最終調整に入ったことから委員会では次のとおり意見を付すことといたしました。

1. 本年4月に発生した秋田八幡平クマ牧場のような惨劇が二度と起こり得ないよう徹底した安全対策を施すこと。
2. 当市に新たな財政負担が生じないよう県と十分協

議し、確約を受けること。
3. 単にクマを受け入れることだけにとどまらず、施設運営に工夫を凝らし、地域文化の継承発展に寄与し、地域振興を積極的に推進すること。

異業種の 農業参入に補助

雇用を創出する農業、ビジネス支援事業補助金について異業種参入に大変有利な制度であるが、雇用人数と今後の制度の活用とアピールについて質疑があり、雇

用計画は来年から1人、県の事業だが市も嵩上げており指導、フォローに努めたい。今回は緊急で2社だけが内容を各セクションに流しアピールしたい。との答弁でした。水道事業会計については不能欠損が増加している事から今後一層収納への取り組みを強化すべきとの口頭での意見を付しました。特別会計3件。市道の廃止、認定。指定管理2件。当委員会に付託された全議案が全会一致で可決すべきものと決しました。

(委員長 松尾秀一)



ヒグマを受け入れる
阿仁熊牧場

一般質問

活かそう市民の声 市政を問う



▶各議員の質問に答弁する津谷市長

一般質問は、12月6日・7日に行われ、11名の議員が市長に対して、市長のトップセールス、病院跡地利用、クマの受け入れ、子育て環境の充実など様々な問題についてたどりました。

※掲載文は、質問者の執筆による原稿を掲載しております。

今後のトップセールスは



佐藤 光子 議員 (きらり)

問 トップセールスの今後の展望について。

答 市のトップが直接出向くことで、多くの課題や事案の解決スピードも速く新たな展開を見いだせるなど、その効果を実感しています。今後も積極的にトップセールスを展開することで、元気な北秋田市をアピールしながら「力強く前進する北秋田市」を目指しています。



アンテナショップとれたて村

きたいと考えています。

問 市長のトップセールス（とれたて村）について北秋田市への効果は。

答 事業所や取扱い商品が増加していることは、情報が得られることで生産者の商品開発や商品改良の意欲に繋がっているものと捉えており、とれたて村参加の一定の効果と認識しています。イベントに定期的に参加し、PRすることで、単なる消費者情報を得ることだけに留まらず、当市の知名度アップや観光面での効果もあることから、継続しながら産業振興を図っていきたい。

議員：市長の考える市の全体像

市長：力強く前進する北秋田市

問 出馬表明時に発言した公約について、市長の考える北秋田市の全体像、メインの公約は。

答 鷹巣地区を中心市街地としてしっかりと形づくりながら、合川、森吉、阿仁の3地区にも核をつくり、交流人口の増加を図り、それぞれが持つ地域資源を十分に活用し、地域が元気になるようなま

問 今後のスキー競技へのバックアップについて。

答 北秋田市スキー協会及び4地区のスキークラブとスキー競技の振興について協議していきたいと考えています。

病院跡地の利活用は



大森 光信 議員 (きらり)

「賑わい」をコンセプトに、市民交流と市民活動支援機能を併せ持ち、子どもから高齢者まで多くの市民が集い、憩うとともに、市民の学習活動や文化活動等、様々な活動を通して交流し、ふれあいを深め、地域の新たな活力と賑わいが創出できるような拠点施設を整備したい。



期待される病院跡地

問 市民病院の運営について、医師・医療スタッフの不足をどのように補い、休止している病棟を稼働させていくのか。また、看護師を目指す者への奨学金貸与制度は考えていないか。

答 今後も厚生連とともに活動を続け、看護師の確保に努めていきたい。また、看護職員の奨学金貸与制度についても、市独自の制度が可能かどうか検討する。

問 まちづくり政策の軸となる旧北秋中央病院の跡地の具体的な使い道は何か。

答 「憩い」「交流」

議員：マニフェストの自己採点は 市長：60点

問 トップセールスの実績とそれについての自己評価は。

答 直接北秋田市をPRし、売り込み、交渉することにより課題が解決したもののや実現した事業などがあり、これまでと確実に変化し、効果が上がっているものと感じている。

問 マニフェスト自己検証と今後については。

答 課題を先送りせず、自らもトップセールス

を行いながら、2人の副市長とともに取り組んできた。2期目に向けてましては、1期目の基本政策を継続しつつ、平成27年度から地方交付税の段階的縮減が始まることから、歳入構造の見直し、歳出構造の総点検などを行いながら、定住支援と雇用拡大、中心市街地活性化、再生可能エネルギーなどの取り組みを強化していきたい。

農業振興について



三浦 一英 議員 (みどりの風)

問 新たな農業戦略と特産品開発に向けた北秋田農業政策について

答 両JAや関係機関との意見交換を行ってきたが今後も北秋田ブランドとして全国に発信できるように、雇用の拡大、やる気のある農業者、法人への支援で高い効果の見込める取り組みをして参ります。

問 人・農地プランへの取組みについて

答 関係機関の協力を得ながら全地区で取り組めます。

問 畜産農家への飼料の高騰対策について

答 価格安定対策を通じて高騰対策の継続を働きかけて参ります。

問 米カメムシに対する市の対策について

答 県の補助対象への要望と関係機関・団体と検討して参ります。

問 JAの合併について

答 市としては合併の動向を注視しながら関係機関、近隣自治体と連携し、できる限り支援していきます。

問 合川南小などの空き校舎の活用について

答 美栄の勤労者体育館に

保管している遺跡の出土品などを展示してはどうでしょうか。

答 耐震の問題もあるので、統合による空き校舎への国の補助金を活用し解体も視野に入れて判断します。

問 合川窓口センターへ団体、企業や市の一部機能を移したら。

答 地域の要望意見を伺い、活性化に向けて有効活用を探ります。

議員：統合簡水事業について 市長：当面事業休止で検討

問 森吉合川統合簡水の事業休止への説明責任が必要ではないか。

答 利用者負担の関係で方向性を見極め、議会、市民への説明をいたします。

問 小阿仁川の水害対策と杉山田バイパス工事について

答 両事業については早期河川改修と早期整備に向けて秋田県と関

係機関に呼びかけます。



改修が待たれる 小阿仁川

医師確保に本腰入れよ



板垣 淳 議員（共産党議員団）

どこの首長もやっていないのか。なぜ

市民病院の一番の課題は、医師が少ないうえに収益が上がらないこと。市長は赤字補てんと家賃免除を約束し実施しているが、これが市財政に大きな悪影響となつていく。なぜ財政が厳しい北秋田市が黒字決算の県厚生連に財政補てんをしない

といけないのか。なぜ医師が300人以上もいる他の県厚生連病院から1人や2人さえ、まわせないのである。津谷市長の政治力が問われる課題である。

【答】私への激励だと思つて、しっかりと受け止めさせていただく。

議員：クマ受け入れの覚書は 市長：まもなく締結する

【問】 昨今、市民病院の医師2名退職、合川診療所医師の病気休養があり、医師確保は以前にも増して重要になっている。

【答】 私は以前、医師確保プロジェクトチームを作るよう提案したが、市長は拒否した。市の医師確保対策費もゼロである。これで何ができるのか。成果はあったのか。

【問】 市長は「県の支援」を条件にクマ受け入れを表明した。ところが『覚書』の前に6頭を受け入れ、残る20頭も受け入れのための予算を提案した。言うこととやることが違う。

【答】 『覚書』はまもなく交わす。



移送されたツキノワグマ

【問】 TPP参加とオスプレイの北秋田市上空での訓練について、市民の生活を守る立場にある市長として、国に

反対の意見書を。

【答】 どちらも東北市長会が国に提出した。

脳脊髄液減少症の理解を



武田 浩人 議員（公明党）

環境の充実への考えを伺います。

【答】 当市の少子高齢化の進行は当初の予想を上回り、早急な対策が必要と考えます。

【問】 トップセールスについて、市民から成果の説明を求められた場合に、どのように説明されますか。

【答】 就任以前からの課題解決に道筋をつけました。また、副市長2人の協力で、医師確保や増員、地元企業の雇用拡大、六次産業化への異業種参入支援、とれたて村との連携や交流事業の実施、マスクミへの売り込みなどがあります。

議員：子育て環境充実への考えは 市長：質の向上と体制整備を進める

【問】 今後の子育て環境の充実について、新たな国の制度運用の前に保護者の要望把握など実施すべき事がたくさんあります。子育て

【答】 この病気は大変判断が難しく、専門医も少ないとのことで見逃

るためにはさらなる調査が必要と考えます。

【問】 今後の、より質の高い保育サービスの提供と各地域の保育体制の整備を進めたいと考え



子どもは未来の宝です

【問】 学校内の転倒事故などで発症の恐れがある脳脊髄液減少症の理解を深めるよう進めていきたいと思

【答】 啓発用冊子は、議員から出された情報を基に検討していきます。

検討委員会の目的は？



福岡 由巳 議員(共産党議員団)

トを集約しているの、検討委員会は、その時点で開くべきでなかったか。分析もしないで放置してあったとも考えられ、今回子ども子育て関連法(以下「関連法」)が国会で成立したこの時期に開いて

いるのは非常に遅い。今後のスケジュールはどうなるのですか。

【答】平成25年度に、検討委員会の報告を受けた後で関連法についてきちんと実施したいと思います。

議員：改定児福法24条の市長の考えは？ 市長：市が責任を果たすことに変更なし

【問】第1回北秋田市保育園等の在り方検討委員会(以下「検討委員会」)で配布された冊子には「保育園と子育て環境の課題」のテーマで記載されているが、検討委員会の目的や課題が示されています。この検討委員会の目的は何ですか。

【答】検討委員会は保育園をはじめとする子育て環境の整備について検討いただくものであり、少子高齢化の進行が予想を上回り早急な見直しが迫られ、当市としての子育ての施策の方針を早急に確立するため発足させました。

【問】3年前にアンケート

【問】民自公3党の密室合意で消費税増税を成立させ、その大増税成立を最優先するわけひきの中で、19項目も付帯決議をつけて関連法も成立させました。関連法では、児童福祉法第24条も改定されました。この24条について、市長はどのように考えて、検討委員会ではどのように扱おうとしているのですか。

【答】第24条については改正後も、保育にかけるとする市町村の責任を果たすことには変わりありません。むしろ、子ども

もに対する環境整備など市町村の責務は増加していると考え、当市がいかに果たしていくべきか検討委員会で議論をいたさたいと考えているところです。



保育所の社会的役割は大

ひまわりの家の運営は



庄司 憲三郎 議員(政友会)

いて、この事業は、県と市との協働プログラム事業であるが、この事業に、阿仁スキー場のゴンドラ施設の更新と太湖遊覧船棧橋までの道路整備や、内陸線利活用の施策を載せるべきと思うが。

【答】市としては、阿仁スキー場を本プロジェクトの中核施設と位置

付け、設備の更新を図ると共に、強風等のためゴンドラが運休しても訪れた観光客が滞在できるように山麓駅舎の機能強化を図る事業展開を考えている。

太湖遊覧船棧橋までの道路については、代道路改良にしても、代替施設整備にしても、実現に相当の時間を要することから、個別案件として今後も県と協議していく。内陸線についても、個別案件として、県も含めて協議していくが、これまでも市職員に、回数券や関連グッズの購入を協力してもらいました。さらに、年明けにも第2弾として職員に協力をお願いしたい。

【問】利用者の減少により毎年赤字が発生している「ひまわりの家」の運営について、見直し検討が必要でないか。

【答】イベントを開催するなど、誘客に努めてきたが、毎年3千万円の赤字で「ひまわりの家の運営協議会」においても、このままの継続は、市民の理解を得ることが難しいとの指摘をされている。



3月で契約が切れるひまわりの家

議員：観光団体との連携は

市長：今後も可能な限り支援

【問】平成24年度末で契約が切れることから、今後は、県からの提示内容を吟味した上で、今後の施設のあり方を議会に相談していきたい。「森吉山大自然満喫プロジェクト」につ

【問】四季美湖を守る会や観光団体との連携はどうなっているか。

【答】全体的な連携をと

ることは難しいが、今後も可能な限り協力をして連携を深めていく。

市民歌、12月中旬に制定委員会



中嶋 洋子 議員 (政友会)

で審議していただく。

問 旧北秋中央病院跡地の利活用については、婦団連からの要望書、市民意識調査や提言等で「公共的な施設」としてはいるが、既存施設の利活用、新庁舎の建設、その他の案についての検討結果は。

答 新庁舎建設や商業施設などの案もあったが、中心市街地の活性化に資する、より効果的な機能は何か。という観点から「憩い」「交流」「にぎわい」をコンセプトとした拠点施設の整備、建設という結論に至った。

問 市民歌を歌うことにより一体感、つながりができます。早く作るべきです。

答 市制施行10周年(平成27年)の節目でお披露目を目指しているが、委員選定の結論が出ていない。今月中の開催に向け進めている。できるだけ早く制定する。私も一緒に歌いたい。

問 未来の財産である子どもをどう育てるか。
答 検討委員会で諸課題について論議、具体的提言をいただき、プロジェクトチームは提言を受けて子育て施策の検討に入り、策定した計画案について議会

問 本来は合併前にそれぞれ町が解決すべき諸問題を、いつ、誰が、解決するのですか。
答 文書で受理したのは昨年度が143団体、353件、今年度が54団体、201件です。住

議員：すぐやる課を作るべき

市長：先送りせずに取り組む



市民歌を歌える日が!!

民の要望は担当課が内容を確認し、優先順位を決めて解決している。

「すぐやる課」の設置は考えていないが、問題は先送りせずに取り組むことは、すべての職員が対応しなければならぬこと。その意識を高めて、行政サービスの向上に努めていきたい。

小坂町に焼却灰の停止を



中嶋 力蔵 議員 (清和会)

から、合わせて2800トンもの焼却灰を受け入れることになっていく。

私がこの点のこだわると言う、地元稲作農家が神経を使っているのは数十年前から確認されているカドミ公害であります。今はJAの指導で乗り越えて来ております。さらに新たに放射性物質濃度が含まれたものが、上流から流出されると大変なことになる。農家経済だけではなしに地域全体の経済にも大きく影響して来ると思う。特に旧町単位から見ても旧鷹巣市民が飲んで

昨年7月中旬まで千葉県の松戸市から、国の基準値である4000ベクレルを大きく超える高い濃度の放射性セシウムを含んだ焼却灰が搬出され停止していたが、1年4か月振りの再開となる。搬出時の分析結果は、国の基準を下回っているが心配だ。

今後の計画では、搬入される数量からみて千葉県、埼玉県の3市

議員：3市で搬入停止を

市長：今後の推移を見守りたい



稲作農家への影響についても十分に理解しているが、流域市と協力を図りながら情報を交換するなど、今後の推移を注意深く見守っていききたい。

決算特別委員会審査報告



8回にわたり慎重な審査が行われた、決算特別委員会

平成23年度各会計決算認定議案24件が本委員会に付託されました。審査にあたり、代表監査委員から実務監査の実態等について意見を求めました。また、審査の最終日には、市長、副市長、教育長に対して総括質疑を行い、認定、不認定の判断に資しました。

一般会計決算の審査では「市長のトップセールスは、活動内容を見ても、人件費削減を強行されているときに2人の副市長は必要でない。市の医療構想は、政策判断

ミスである。その具体的予算であったため決算も同様である」などと反対討論がありました。

病院事業会計決算の審査では「新医療整備基本構想が達成できない決算となっている。指定管理者制度により経費節減を行うはずだったが、納付金当面免除、赤字補填を当面続けていくということ、住民の負担があまりにも大きい」などと反対討論がありました。また「市民の医療福祉の充実を図るためのもので、計画の実現に向けて努力している。また、審査も、来期からもっとわかりやすくしていきたいとの答弁もあり、反対する理由にはならない」などの賛成討論がありました。委員会では「事業内容を正しく検証していくためにも、決算関係書類に工夫を加えられたい」との口頭での意見を付しております。

慎重に審査した結果、総合的な口頭の付帯意見として「決算委員会の審査の成果が、次年度予算に反映できるよう改善を図ること」を付して、全ての議案を認定すべきものと決しました。

保育園運営のあり方を調査

健康福祉常任委員会

幼・保育園再編計画について

愛知県常滑市は、平成21年に市幼・保育園再編計画を策定し、園児数を原則60人以上、1年齢20人以上。園児一人あたりの経費の平準化を図り、サービスの拡充を図るため、園を集約化(再編)する。待機児童は出さない。公設公営と同レベルを保つことを条件に民間活力の導入を図る。などの具体的な対応策を実施しています。

現在は、当初19園あった幼・保育園が13園に統合再編されております。その中でも、2保育園を閉

園、統合して今年度から開園した認定こども園、波の音保育園(民間)を視察しました。

同保育園は、市有地を無償貸与して、民間事業者が園舎等の施設を建設し運営しており、定員180名。園舎は園庭を囲むように配置され、各保育室がデッキで結ばれており、開放的ですすべての保育室から園庭の様子が確認できるようにつくりになっておりました。

地元NPO法人による市立保育園の指定管理

岐阜県下呂市は、市行政改革大綱による人員の削減や業務の民営化・民間委託が推進され、保育園の公設民営化を実施しています。

現在、2園が公設民営の保育園として運営。運営者は地域のNPO法人で、地域の力と地域の特徴を活かした保育を実践しています。

運営している松山理事長からは「保育による地域力の再生こそが、私たちが抱える大きな課題を解決してくれる大きなキーワードになると考えています」などと地域再生にかける思いをお聞きました。



市立保育園の再編によるあり方などについて調査した常滑市

11月7日
～
11月9日

人事案件

本定例会に人事同意案件が提案され、次のとおり同意することに決定しました。

◎人権擁護委員候補者の推薦
中嶋 眞知子 (住吉町)



副委員長の辞任・選任

山田博康議員から、産業建設常任副委員長の辞任願が提出され、委員会で許可されました。これに伴い、次のとおり副委員長が委員会において選任されました。産業建設常任委員会

副委員長 金田 司

市議会を傍聴してみませんか

本定例会の一般質問では、三木田婦人会の皆さん8名と鷹巣婦人団体連絡協議会の皆さん11名が本会議を傍聴しました。議員の質問や当局の答弁を、聞き入り、内容のメモをとる方もおり、地域課題の理解を深めていました。市議会では、市民の皆さんの議会の傍聴をお待ちしています。



三木田婦人会の皆さん



鷹巣婦団連の皆さん

あとがき

新年を迎え皆様、いかがお過ごしでしょうか。昨年は、12月定例会の議会だよりが配布された1月末に鷹巣地区をはじめ市全域が記録的な大雪になりました。国道も除雪が追いつかず大渋滞で、正に雪害の恐ろしさを体験しました。今年も年明けから連日の大雪と低温続きで、市民の皆様も大変ご苦労されていることと思います。

さて、北秋田市議会の12月定例会は過日終了し、無事平成24年を終えることが出来ました。今年度は平成に入り早いもので、四半世紀となる重要な節目の年であります。

今後、議員個々に求められる北秋田市のさまざまな諸課題を、ますます連携を強くして乗り切っていくなくてはならないと、強く決意するものであります。

最後に、この一年が皆様にとってより良い年でありますようにご祈念致します。

(武田浩人)

皆さんからの請願・陳情と意見書提出

件名	請願・陳情者氏名	結果	意見書
消費税増税の中止を国に求める陳情	秋田県商工団体連合会 会長 小玉正憲	採択	提出
安全・安心の医療・介護実現のための夜勤改善・大幅増員を求める陳情書	秋田県医療労働組合連合会 執行委員長 中村秀也	採択	提出
介護職員処遇改善加算の継続、拡充を求める陳情書	秋田県医療労働組合連合会 執行委員長 中村秀也	採択	提出
「教育費無償化」の前進をもとめる陳情書	秋田県ゆきとどいた教育をすすめる会 会長 沼田敏明	採択	提出
「ゆきとどいた教育」の前進をもとめる陳情書	秋田県ゆきとどいた教育をすすめる会 会長 沼田敏明	採択	提出
国に、生活保護基準の引き下げをしないことを求める陳情書	秋田県社会保障推進協議会 会長 渡辺淳	不採択	
地域経済と雇用対策強化の為の地方財政の充実・強化を求める陳情書	連合秋田大館地域協議会 議長 碓谷博人	採択	提出
生活保護基準の引き下げはしないことなど国に意見書提出を求める陳情書	北秋田生活と健康を守る会 会長 細田サミ	みなし 不採択	

次の定例会は
3月です
市民の皆さまの傍聴を
お待ちしております

各常任委員会の会場
総務財政(本庁舎)
教育民生(本庁舎)
健康福祉(本庁舎)
産業建設(本庁舎)

た報公聴特別委員会

委員長 佐藤 光子
副委員長 武田 浩人
委員 長崎 克彦
関口 正則
大森 光信
渡辺 靖光

事務局担当 渡辺 靖光